

平成30年7月31日

松阪市議会議長  
山本芳敬様

グループ阜 海住恒幸  
西口真理

## 議員研修会参加報告

平成30年7月26日(木)に鈴鹿市で開催された「地方議員特別セミナーin 鈴鹿」に参加してきましたのでご報告いたします。

- 日時 平成30年7月26日(木) 13:00～17:10
- 会場 鈴鹿市民会館 2階展示室
- 研修会の名称 第14回 地方議員特別セミナーin 鈴鹿
- 主催 地方自治学習会
- 参加者 東海・北陸、近畿地区を中心とした議員約40名(一部、将来の議員候補等の市民を含む)

### 【プログラム&内容】

#### ① コスト削減とサービス向上を両立！

～新しい官民連携手法 SIB (ソーシャル インパクト ボンド) とは?～

講師：株式会社ブレインファーム、株式会社キャンサースキャン

##### ・SIB とは何か？

従来手法、PFI との違いについて。民間からの投資を原資として、公共サービスを実施し、「創出された成果」に応じて投資家に対価を支払う新しい仕組み。

##### ・SIB の事例紹介

ヘルスケア領域における SIB 活用の有効性事例。がん検診受診率向上の実例について。



## ② 議員必須! 予算審査の新しい視点

～資料の見方を変える審査方法を学ぶ～

講師：伊藤 伸 政策集団「構想日本」統括ディレクター

伊藤氏は、事業仕分けの仕分け人としての経験が豊富で、仕分け活動を通して、全国さまざま自治体の事業評価の状況を知っている。

・自治体の「評価」が効果的にならない理由を次のように見ている。

評価は、次に繋げるからこそ意味がある。評価のための評価になりがち。計画(予算)と評価(決算)が一体化されている企業と、結びついていない行政の違いについて。

・予算審査の中にいかに決算の視点を入れるか。十分な資料を持って予算審査にのぞんでいるかを、実地で体験するため、ほとんど資料のない状態ではどのような審査しかできないかをワークショップを通して体感した。

・ワークショップ

《4班に分かれて、2種類の事業シート(鈴鹿市)を使って模擬予算審査》

(1)鈴鹿市の自転車駐車場管理運営事業

(2)老人クラブ連合会運営費補助



<所感>

- (1) 新しい官民連携手法 SIB（ソーシャル インパクト ボンド）について  
行政サービスを民間事業者の事業手法に委ね、成果が出れば事業者を支払っていく（後払い）仕組みというが、成果が出なかった場合の異業者の経費はどちらが負担するのだろうか。八王子市などが取り組んでいる事例はあるが、現状では試行段階で、評価は定まっていない。
- (2) 議員必須！ 予算審査の新しい視点～資料の見方を変える審査方法を学ぶ～について  
鈴鹿市に現に存在する2つの事業について 2 班ずつ計4班に分かれた参加者が、各班で委員長を選任し模擬委員会を開催した。各事業について、半時間ほど、鈴鹿市の担当者が事業概要を説明し、委員長の采配のもとで各委員が質疑し、意見を述べる方法だったが、事業仕分けの雰囲気になってしまった。補助金の在り方、成果に対する評価の仕方について仕分け方式は効果があるが、1つ、2つの事例を体験するだけではノウハウを体得するのは難しく、机上での議論だけでは限界がある。やはり、一つ一つの事業が行われている現場にあってその事業の意味や必要性を見て、聞き取った検証をベースにして初めてわかる気がする。ただ、議会の決算、予算の審査の数は膨大であるのでとても追いつけるものではない。結局は、議員が普段から予算が可決し、事業執行の中で評価し得るよう、事業のフォローアップが欠かせない。事業の意義、存廃を決めていくのは新規事業ではなく継続事業であることが多いので予算、執行、決算、予算、執行、決算という事業サイクルの中で評価が可能になる。

以上